

問1 東北地方の稲作において、気候特性と農業技術の適応について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 京都公立入試 類似）

- 夏の低温被害である冷害を避けるため、品種改良によって耐冷性と食味を両立させた銘柄米の生産に力を入れている。
- 広大な平野を活かして、夏と冬で異なる作物を作る二毛作が全域で普及しており、米の銘柄化は進んでいない。
- 日本海側では「やませ」の影響による干ばつが多いため、干拓地を利用した大規模な灌漑施設による銘柄米作りが行われている。
- 冷害対策として、全ての水田を温室のような施設栽培に切り替えることで、高級な銘柄米を安定供給する体制を築いた。

問2 山形県や福島県の内陸部に位置する盆地の農業について、地形の特色と結びつけた説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 宮城県公立入試 類似）

- 山に囲まれた低地特有の水はけの良さを活かして、さくらんぼやももなどの栽培が盛んである
- 広大な平坦な土地と豊かな水を活かして、日本有数の米の単作地帯となっている
- 標高が高く夏でも涼しい気候を活かして、キャベツやレタスなどの高原野菜が栽培されている
- 海岸沿いの平野部で、冬の温暖な気候を利用したビニールハウスによる促成栽培が行われている

問3 青森県と秋田県にまたがり、世界最大級の原生的なブナの天然林が分布していることから、1993年に世界自然遺産に登録された山地はどれか。（2024年 青森県公立入試 類似）

- 白神山地
- 奥羽山脈
- 知床
- 北上高地

問4 東北地方の内陸部において、1月の平均気温が氷点下になるほど冬の寒さが厳しくなる一方で、夏から秋にかけて降水量が多くなる主な理由として、地形と季節風の関係から説明したものとして適切なものはどれですか。（2021年 静岡公立入試 類似）

- 冬は冷たい北西の季節風が奥羽山脈などの山々に遮られるため乾燥して冷え込み、夏は太平洋側からの湿った風の影響を受けるため。
- 冬は暖流である日本海流の影響を強く受けるが、夏は寒流の親潮（千島海流）が南下してきて冷たい雨を降らせるため。
- 周囲を高い山々に囲まれた盆地であるため、一年を通して季節風が入り込まず、夏は極端に乾燥し冬は放射冷却で冷え込むため。
- 冬はシベリア高気圧から吹き出す季節風が日本海で湿気を蓄え、奥羽山脈にぶつかって内陸部に大量の雪を降らせるため。

問5 東北地方の果樹栽培について、2015年の統計でりんごの収穫量が全国1位であり、西洋なしの収穫量でも全国2位となっている県はどこですか。（2017年 山口公立入試 類似）

- 青森県
- 山形県
- 福島県
- 岩手県

問6 山形県の工業に関する記述において、内陸部と沿岸部の地域的な特色を正しく説明しているものはどれですか。（2021年 東京都公立入試 類似）

- 内陸部の盆地周辺には、高速道路の整備に伴って電子機械工業などの工場が立地し、沿岸部には港湾を活かした石油化学コンビナートや鉄鋼業が立地している。
- 内陸部では伝統的な食料品工業が工業出荷額の大部分を占めており、沿岸部では北前船の寄港地であった歴史から、現在は繊維工業が中心となっている。
- 内陸部では広大な土地を活かした自動車の組み立て工場が集中的に立地し、沿岸部では豊富な水産資源を加工する食料品工業が工業の主体となっている。
- 内陸部では豊富な森林資源を利用したパルプ・紙工業が発達しているが、沿岸部には大規模な工業地帯は見られず、観光業が中心の産業構造となっている。

問7 日本の地方別の特徴について、ある地方では面積割合（約17.7%）が人口割合（約7.1%）の2倍以上となっています。このデータから読み取れる東北地方の実情と、比較対象となる他の地方との関係について述べた文として正しいものはどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）

- 広大な面積に対して人口が少ないため人口密度は低く、人口が集中する関東地方などとは対照的な指標を示す。
- 面積割合と人口割合の差が小さいため、中部地方と同様に人口が各県に分散し、全国平均に近い人口密度を保っている。
- 人口割合が面積割合を大きく下回っているのは、広大な土地のすべてが工業地帯として利用され、居住に適さない場所が多いからである。
- 人口密度が全国で最も低い水準にあるため、東北地方には人口が100万人を超える都市や政令指定都市は一つも存在しない。

## 答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**  
夏の低温被害である冷害を避けるため、品種改良によって耐冷性と食味を両立させた銘柄米の生産に力を入れている。
- 東北地方は日本の米蔵と呼ばれますが、常に冷害のリスクと隣り合わせでした。技術革新により、寒さに強いという特性だけでなく、消費者ニーズに応える「美味しいお米」としてのブランド（銘柄米）を確立することで、冷害への耐性と収益性の確保を同時に実現しています。二毛作は一般に冬が温暖な西日本で行われることが多く、東北地方では一毛作が中心です。
- 
- 問2** **答え 1**  
山に囲まれた低地特有の水はけの良さを活かして、さくらんぼやももなどの栽培が盛んである
- 山形盆地や福島盆地といった東北地方の盆地では、その地形的特徴から、さくらんぼ（山形県が生産量日本一）やももなどの果樹栽培が非常に盛んです。盆地の縁の部分には扇状地などの水はけの良い土地が広がっており、これが果樹栽培に適した条件となっています。選択肢にある米の単作は庄内平野などの平野部、高原野菜は奥羽山脈などの高地、促成栽培は高知県や宮崎県などの太平洋側の温暖な地域の特徴です。
- 
- 問3** **答え 1**  
白神山地
- 1993年に屋久島とともに日本で初めて世界自然遺産に登録された地域である。「青森県と秋田県の県境」という位置と、「ブナの天然林」という植生が最大の判断ポイントとなる。誤答の奥羽山脈は、東北地方の中央を南北に走る日本最長の山脈であり、地理的な位置や特徴が異なるため注意が必要である。
- 
- 問4** **答え 1**  
冬は冷たい北西の季節風が奥羽山脈などの山々に遮られるため乾燥して冷え込み、夏は太平洋側からの湿った風の影響を受けるため。
- 東北地方の気候は、中央を南北に走る奥羽山脈によって日本海側と太平洋・内陸側に大きく二分されます。内陸の盆地や太平洋側では、冬は山脈が湿気を遮るため雪が少なくなりますが、その分晴天が多くなり放射冷却で気温が著しく低下します。逆に夏は、太平洋側からの湿った季節風や、梅雨、台風などの影響で、一年の中で最も降水量が多くなる傾向があります。
- 
- 問5** **答え 1**  
青森県
- 青森県はりんごの生産量が全国の約半分を占める日本一の産地です。また、西洋なしの生産においても山形県に次いで全国2位となるなど、冷涼な気候を活かした果樹栽培が盛んに行われています。対して、西洋なしで1位、りんごで3位となるのは山形県です。
- 
- 問6** **答え 1**  
内陸部の盆地周辺には、高速道路の整備に伴って電子機械工業などの工場が立地し、沿岸部には港湾を活かした石油化学コンビナートや鉄鋼業が立地している。
- 山形県の工業は地域によって明確な特色があります。内陸部の盆地には、製品が小型で輸送コストを抑えられ、高速道路網による迅速な輸送が求められる電子機械工業が多く立地しています。一方で、沿岸部の酒田市などでは、原材料の輸入や製品の大量輸送に便利な港湾機能を活かし、石油化学コンビナートや鉄鋼などの重化学工業が発達しました。
- 
- 問7** **答え 1**  
広大な面積に対して人口が少ないため人口密度は低く、人口が集中する関東地方などとは対照的な指標を示す。
- 東北地方は、面積割合が約18%に対して人口割合が約7%と、土地の広さに対して人口が少ないという特徴があります。これにより、人口密度は全国的に見て低くなります。これは、狭い面積に膨大な人口が集中する関東地方などの都市圏とは正反対の統計的傾向です。なお、東北地方にも宮城県の仙台市のような政令指定都市は存在しており、地方内での人口分布には偏りも見られます。